

犬山北小学校所蔵の藩校敬道館史料および明治期教科書史料

1. 犬山藩校敬道館について

十八世紀後半から十九世紀前半には、体制維持に対する危機意識が高まり、人材育成と民衆教化の機関として全国的に藩校設立の気運が高まった。尾張藩附家老の成瀬家当主 8 代の正住は、尾張藩の派閥抗争の混乱を鎮めるため、人事刷新と教育による意識改革を中心とする家政改革を実施したが、その一環として天保 10（1839）年に家臣の教育のための学問所として敬道館を犬山城三之丸に創設した。

敬道館では、8 歳から 15 歳までの家臣の子弟が入学を許可され、教育内容は、儒学を中心に武家礼法を教えた。幕末には、国学や蘭学も教えられた。また、正住は名古屋の成瀬家邸にも学問所・要道館を開設した。維新後に敬道館と要道館は合併し、犬山藩が設立されると犬山藩の藩校・敬道館となった。

敬道館で育成された人材からは、幕末・明治維新时期に活躍する多くの優れた人材が出た。その意味では、正住の家政改革は、明治維新へとつながる重要な布石となったのである。

2. 藩校敬道館から犬山北小学校への変遷

敬道館は廃藩置県によって明治 4（1871）年に廃止されたが、明治 6（1873）年に愛知県は稲黄義校（祥雲寺内）、および琢生学校（旧犬山藩代官所）を開設した。稲黄義校と琢生学校の教員に就任したのは旧敬道館の助教や塾頭など関係者だったので、旧敬道館の遺産は稲黄義校と琢生学校に引き継がれたと言える。のちに稲黄義校と琢生学校は統合して尋常小学稲黄学校と改称され、さらに犬山町立尋常小学校、犬山第一尋常小学校、犬山北尋常小学校、犬山町立北国民学校、犬山町立北小学校、犬山市立犬山北小学校などと名称を変えて現在に至っている。

3. 犬山北小学校が所蔵する藩校敬道館史料および明治期教科書史料について

犬山北小学校が所蔵する藩校敬道館史料には、孔子像、儒学の四書（『論語』、『大学』、『中庸』、『孟子』）、『元明史略』、『通語』、幕末のベストセラー『日本外史』が含まれている。これらの書籍に敬道館の蔵書印や要道館の記載があることは、実際に敬道館と要道館で使用されていたことを示している。愛知県教育会が 1931 年に実施した調査の記録『維新前寺子屋、手習師匠、郷学校、私学校の調査』には、敬道館の後進である犬山北尋常小学校の教師によって、敬道館の教科書として上記の書籍に対応する書籍が記載されているので、これらの史料群を見ながら調査書に記載したのかもしれない。

また、琢生学校蔵書の記載がある書籍や、使用していた生徒の署名がある尋常小学校期の教科書、成瀬美雄氏から寄贈された明治期の教科書史料なども、犬山の近代教育史の記録として興味深い。

犬山北小学校が所蔵する藩校敬道館史料および明治期教科書史料は、江戸時代末期に藩校敬道館で学ばれていた「知の体系」を示すとともに、それが明治以後の近代学校教育にどのように引き継がれたのかを考える上で貴重な史料であり、今後も地域の大切な歴史遺産として保存・継承していく必要がある。

【参考文献】

- 愛知県教育委員会『愛知県史 通史編 4 近世 1』（2019 年）
愛知県教育会『維新前寺子屋、手習師匠、郷学校、私学校の調査』（1931 年、愛知県図書館蔵）
市橋鐸「犬山藩の教育とその事績—敬道館聞書—」（『愛知教育』第 557 号、1934 年）
犬山市『犬山市史』通史編下（1995 年）
犬山城白帝文庫『特別展 犬山城主成瀬家の家臣たち』（犬山城白帝文庫、2021 年）
犬山城白帝文庫『特別展 明治維新と犬山～犬山藩の誕生～』（犬山城白帝文庫、2010 年）
木全清博「尾張北部の旧丹羽郡の学校史（3）—犬山市の藩校・寺子屋から小学校設立へ—」（『名古屋芸術大学研究紀要』第 42 巻、2021 年）